

# 平成30年3月期 中間決算について

平成29年11月6日  
JFE鋼板株式会社

平成29年9月中間期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(百万円未満切捨て)  
(%表示は対前年同期増減率)

	売上高		経常利益		特別損益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年9月中間期	29,821	9.1	△ 144	-	△ 19	-	△ 184	-
28年9月中間期	27,330	△ 7.0	255	-	△ 664	-	△ 336	-

注 連結子会社数 平成29年9月中間期 5社、平成28年9月中間期 5社  
北長金日米建材(株)、JFE鋼板総合サービス(株)、JFE機材フォーミング(株)  
レチノルーフトック(株)、JFE日建板(株)  
持分法適用関連会社数 平成29年9月中間期 1社、平成28年9月中間期 1社  
JFE商事薄板建材(株)

(百万円未満切捨て)  
(%表示は対前年同期増減率)

	売上高		経常利益		特別損益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年9月中間期	26,024	7.7	△ 245	-	△ 18	-	△ 206	-
28年9月中間期	24,174	△ 7.3	230	-	△ 655	-	△ 320	-

## 【当中間期の概況と損益】

当社の当中間期の連結売上高は、高付加価値鋼板の販売に注力したことや販売価格の改善等により、29,821百万円(前年同期比+2,491百万円、+9.1%)と増収となりました。

しかしながら、千葉CGLへの移管集約にあたり設備欠陥が判明し、生産能力低下が発生いたしました。一過性のトラブルではありますが、上半期において大幅な損益悪化をもたらしました。

また、値上げはある程度浸透したものの、原材料の高騰は続いており、収益押し下げの要因となっています。

以上の結果、経常利益は、△144百万円(前年同期比△399百万円)と大幅に減少し、当中間期純利益は、設備集約に伴う特別損益△19百万円があり、△184百万円(前年同期比+152百万円)となりました。

## 【当期の見通し】

千葉CGLは、9月の大修理で設備改造工事を完了し、現在、設備不良は解消していると共に、生産量も従来以上の増産が可能となっております。JFEスチール(株)と連携した設備運用等も奏功し、生産能力は順調に回復しております。

一方、鉄鋼原材料の価格は、足下の需給ひっ迫を背景に引き続き高い水準にあり、加えて亜鉛・アルミも高騰していることから、当社を取り巻く経営環境は一層厳しくなるものと予想されます。

当社は、これまで種々の施策を実行し黒字転換を果たしてきましたが、足下の厳しい状況を踏まえ、全社一丸となって更なる意識改革を推進し、高い目標を掲げ、生産量アップ、コスト削減(歩留及び効率性の向上等)を徹底して実施いたします。

当期は第5次中期計画の最終年度でもあり、収益確保に向けて全力を尽くしてまいります。

以上